2018年4月14日

# 老子会会報

老子会 主催
第007号

## 老子会のモットー

「老子の道（タォ）の精神を生かし、自分を変え、世界を変え、未来を変え、平和の世界を構築し、人類の幸福を推進していく」ことをモットーとする。

### 高知学外研修会から

「自然堂」と称した龍馬

龍馬は『老子』「上善若水」を敬慕し、自分の号を「自然堂」と称した。

龍馬は、手紙自分の号を「自然堂」と書いたり、下関で龍馬とお龍の住まいを「自然堂」を称していたとあった。龍馬は「老子」の生き方に憧れていた。勝海舟も老子に似た生活をしていたようである。生き方が、近かったから師弟関係になったのでは？

龍馬の有名な短歌「**世の人は我を何とも言わば言え 我なす事は我のみぞ知る**」。これは、龍馬の反骨精神と孤独感がにじみ出る言葉と思う。だから、「自然堂」なる考えが出て来たのだろうか。

龍馬は、幕末運動には少し遅れて参画した。長州の吉田松陰、久坂玄瑞、熊本の宮部鼎蔵、高知の武市半平太、薩摩の西郷隆盛、早々たる顔ぶれに幕末前夜の一時期に大きな仕事をする。それは、老子の教示「大器晩成」なのか。また、薩長連合まとめた、一つも目的に敵味方はない考え方は「和光同塵」からの発想なのかもしれない。

謙虚な立場を撮り続けた龍馬

自分は前面に出ず、別発想で日本を盛り上げる夢を持っていたのか。それは、まだ動き出す前に暗殺された。政治の舞台では、仲介役に徹した。表舞台に出るのは、西郷隆盛、木戸孝允等だった。龍馬は厚かましい交渉はするが、謙虚な立場を撮り続けた。

「上善若水」を敬慕する龍馬

「上善若水」は、「上善水の若（ごと）し。水は善く万物を利して而も争わず、衆人の悪（にく）む所に拠（お）る。故に道に畿（ちか）し」意訳すると、「最高のまことの善とは、たとえば水にはたらきのようなものである。水は万物の生長をりっぱに助けて、しかも競い争うことがなく、多くの人がさげすむ低い場所にとどまっている。そこで、「道」のはたらきに近いものだ」。

また、『老子』に「大器晩成」という言葉があった。これを読み、正に龍馬ではないかと思った。「広徳は足らざるが若し。質真は渝るが若し。大方は隅無く、大器は晩成し」

「高い徳は低く見え、真の白さは汚れて見え、広大な徳は欠けているように見え、変わらぬ徳はうつろいやすく見える。とっても大きなものは、四方の隅が見えない。とっても大きな器量は、馬鹿に見えるものだ」

過激な解釈訳だが、「大賢は愚かなる如し」（真に賢い人は知識をひけらかさないので一見、愚かな人のようである）。坂本龍馬とは、真の賢人だったのかもしれないね。

「大器晩成」

龍馬は老荘思想の影響を受けてるんじゃないかと。「大器晩成」は老子の中に出てくる言葉である。

【老子・第四十一章】

大方無隅。大器晩成。大音希聲。大象無形。道隠無名。

**【現代語訳】**

大きな四角形は角が見えず、大きな器（うつわ）は出来上がっていないように見える。大きな音はその響きが聞き取れず、大きな形は形としては見えない。

そして万物の摂理たる「道」というものも、人間の認識を越えたものなのだ。が、本来の意味である。

老子は「無為自然（むいしぜん）」である事を重んじた。

「無為自然」とは、小さな智恵などに縛られず、ありのままに生きる、という事である。

自己流の学問

よく龍馬のことを無学であるとか無筆であるとか言われる。

土佐に帰郷して以来、龍馬は自分なりに学問を心掛けるようになった。

よく龍馬に対する評として「学問がない」とか「文字がない」などということ言われる。子供時代の龍馬が「ぼんやり」などと評されていることを考えても「秀才」的なイメージは、まず持たない。

龍馬は平生『老子』を耽読したとのことであるが、其飄逸虚無の趣はこれによりて得たものと思われる。（龍馬の自然堂の号はここに胚胎する）。龍馬の書簡中には意外にも時々経典の成句に接することがある。龍馬の手抄中には『韓非子』を引用したり、また英語を学習したりしたものが書かれている。

# 高知学外研修感想文

高知研修に参加して

石井　政

今回の老子会は第50回を記念する学外研修会となりました。宿泊は４回目となり、回を重ねるたび参加者が増える傾向は誠に嬉しい限りです。当日の集合時間が早朝だったので大阪に前泊した会員もおられたと聞き驚きました。高知までの高速バス車内では参加者同士の会話に花が咲き、出されたワインを楽しみました。当日は、老子哲学「吾唯足知」でお馴染みの純米大吟醸酒があるという司牡丹酒造のギャラリーで試飲に舌鼓を鳴らしました。その後、青山文庫に立ち寄り幕末から近代にかけて多くの資料が展示され歴史の重みに見入りました。ホテルで坂本龍馬の名言の一端を胡金定先生から伺い、高知の夜の街へ散策を楽しみながら夕食会場へと向かいました。老舗と言われる「司本店」で名物のさわち（皿鉢）料理に歓声を上げながら食事の醍醐味を味わいました。高知では、さわち料理は女性が台所にくぎ付けされずに男も女も郷土料理と地酒を楽しみながら未来の夢に向かって大いに議論が交わされたことと想像できる。そのあとは屋台村に足を運びラーメンなどを食した。みんなよく食べること食べること。ホテルに帰ってもロビーで夜中まで飲み明かしました。明日、みんな大丈夫かなと思いつつ。

明朝、皆寝坊することなく元気溌剌と朝食をいただきホテルを出発しました。中には、６時に起きて高知市内を散策したと聞きました。そのバイタリティには脱帽です。二日目は、桂浜の坂本龍馬像を見学し太平洋を望む龍馬が「日本を今一度洗濯いたし申し候」との強き思いに明治維新の時代転換の大器を感じました。ハードスケジュールの中、高知城、龍馬の生まれたまち記念館など有意義な学びの時間が流れていきました。私が思うに、龍馬は下級武士の出でありご法度である脱藩を犯した一見危険人物とみられがちにもかかわらず桁外れた人脈の豊かさと資金援助をしていた人物の存在が否定できません。海援隊結成など相当な財源がなければ不可能であったことだろう。時代を動かす何か大きな潮流を感ぜずにはおれません。最後に、私は参加者の皆さんにくれぐれも荷物など忘れ物のないよう何度も注意したにもかかわらず私自身が帰りのバスにコートを忘れてしまい面目のなさ極まれりでした。16名の参加者で2日間事故もなく有意義な楽しい学外研修が出来たことに感謝とお礼を申し上げます。

# 高知学外研修感想文

## 「英年早逝」、「大器晩成」と「大器免成」
## ーー坂本竜馬から考える老子思想の無限大ーー

2018年4月　秦　爽

坂本竜馬は、33歳の若さで暗殺されて、明治という新しい時代を見ることができなく、人生を終えてしまったことを、切なさの外には、いつまでも心に痛みとして残っています。

坂本竜馬と同時代の数多くの若者が信念を持って、若い命を国を救うために捧げました。もし彼らが明治まで生きていたとしたら、また、違った新たな世界が開けたことでしょう、多くの人が残念に思います。

「若くして亡くなる」ことは、中国語では「英年早逝」と言います。四字熟語で英気盛んな時に早世するという残念な気持ちを表した言葉です。

それに対して、田中光顕（享年96歳）、牧野富太郎（享年95歳）、日本国の教育ために尽力して、社会に大きな貢献したことこの二人に、私は大変な感銘を受けました。

「大器晩成」は、年と経ることに、人が出来上がっていくという考え方です。或いは、大人物となる人間は、普通より遅く大成すると理解されています。四字熟語として、日本人と中国人ともに小さい頃から馴れ親しんできた言葉です。人間として大きな器を作るのには時間かかるということを表しています。じっくりと長い時間をかけなければできないと、私も理解していますが、日本人の一つの考え方として定着しています。歴史を通じて、今日までに大きな影響力を与え続けています。

ここで、老子の原文を記載します。

「大方無隅、大器晩成、大音希声、大象無形」四つの言葉ですが、真に大きいなる方形は隅がないように見え、真に大きいなる器は時間かけて完成する、真になる大きいなる音は耳に聞き取れない、真に大きいなる象（すがた）には形がない。このように道はその姿がかくして本質を表すことがなかったが、道が万物に力を貸して成就させると、第41章で道の本質をさまざまな表現で説明していたことです。

しかしながら、この四つの言葉の中で「無隅、希声、無形」三つの言葉は否定であるのに、「晩成」だけが肯定の意になっていることに目を引く。

調べたところ、1973年発掘された湖南省長沙市馬王堆の漢墓で、「帛書老子」甲本（前漢BC206年以前）、「帛書老子」乙本（BC180年頃）によって、「大器晩成」を「大器免成」のように書かれています。それから、1993年湖北省荊門市郭店の楚墓から、「楚の竹簡老子」（BC300年頃）を出土した。そこに「大器晩成」を「大器曼城」になっています。曼城は免成と通用するのです、曼は無の意で免に通じる。即ち老子のテキストは、以上の本によると、「大器晩成」を「大器免成」になることになりました。或いは真に大きいなる器は完成することがないという意になります。それこそ老子思想に最も適切な解説ではないでしょうか。

「大方無隅、大器免成、大音希声、大象無形」中の「無隅、免成、希声、無形」はすべて否定文になり、文言的には適うように感じます。そこで、「ありのままの道」であり、「無作為の道」で、道の営みは無限であることを語っていることを読み取れます。

「大器晩成」という言葉は、千年にわたって人々に励ましてきた絶句でもありますが、老子の真意に近いのは「大器免成」だと、私のささやかな思いであり、今回の野外見学に得たものでもあります。

# 老子会の『人』金理恵さん

金さんは　兵庫県在住、大阪吹田市の(株)ＴＷＣで取締役として活躍されています。

学生時代からサービス業が好きで、アルバイトも接客のあるカラオケＢＯＸや飲食店で頑張られていました。

スポーツも万能で、得意な水泳では高校時代に「地区大会」に出場するほどの実力でした。

大学では、水泳部が無かったため「タッチフットボール」に転向、挑戦を開始しましたが、アルバイトのほうに熱が入り、その楽しさから部活は中断、結局やめてしまいました。それでも現在に至るまで水泳は得意競技とされています。

同じく、大学時代は人文学部（英米文化科学科）に在籍、韓国語はこの時に学びました。歴史や人物が好きで、老子の学習にも真剣です。

在学時代は、教師になりたいとの志を持たれていましたが、「国籍の関係で実現は難しい。」と言われてしまい、不本意ながら断念せざるを得ませんでした。

もし、先生になっていらっしゃったとしたら、生徒に慕われる「人気の先生」となっていたことは間違いないでしょう。残念です・・・

あらたな進路を模索する中、「やはり好きな接客業を選ぼう」と就活、飲食店関係に挑戦し「贔屓屋」さんに就職されました。

贔屓屋さんでは、一から接客のイロハを勉強、持ち前のバイタリティーと地道な頑張りで、やがて「女将」として働くようになります。毎日が、和服での仕事となり、「おかげで、着物は自分で着ることができるようにった。」とのこと。老子会にも時に着物姿で参加されるのには、そんな背景があったのですね。

その後、飲食店一筋で働かれましたが、勤務時間が異常に長く、睡眠不足と疲労のせいか「交通事故」の試練に直面してしまいます。ご両親に心配をかけたくないと飲食業を断念、転職後は、経理のことも身に着けていたことから、経理中心の仕事となりました。営業もこなしながら現在に至っておられます。「飲食店とは違う忙しさがありますが、良い人生経験ができています。」と、はじける笑顔が印象的な女性です。

＜老子会の皆さんへ＞

私は、特別才能があるわけではありませんが、歴史や人物が好きで、勉強することが何より楽しく思います。そして、たくさんの方と縁を持って、色々なお話を聞くことが何より楽しく感じます。まだまだ、浅い人間ではありますが、皆様とともに学び、教えて頂きながら、頑張っていこうと思っております。これからも、ご指導いただけますようにお願い申し上げます。

（金　理恵）

**３月度「老子会」のご報告**

老子会の皆様には、いつもご協力頂き誠にありがとうございます。

3月度の老子会は16名で高知研修を行い、坂本龍馬の生まれ故郷を訪ねました。400年の老舗司牡丹酒造ギャラリーで試飲等し、青山文庫施設を見学しました。交流会はさわち（皿鉢）料理の老舗「司本店」にて本場土佐の料理に舌鼓をうち、ビンゴゲームを楽しみました。二日目は桂浜の坂本龍馬像や、高知城など見学し有意義な研修となりました。4月度は、昼に夙川河川敷緑地で花見を楽しみます。（老子会は15時から甲南大学で実施）

さて、月刊誌「第三文明」4月号から『老子マンガ』が連載されています。（５月号も発刊済み）今後も、乞うご期待！です。寒さも和らぎ、各地で花が咲き誇っています。季節の変わり目でもあり、皆様にはくれぐれもご自愛くださいませ。

**今後の「老子会」のご案内**

**第５２回老子会は５月１２日(土)１５時～甲南大学6-33教室で実施。　✧　交流会１８時３０分～**

**第５３回老子会は６月１６日(土)１５時～甲南大学6-33教室で実施。　✧　交流会１８時３０分～**

**（石井政　事務局長）**

# 老　子　会

〒658-8502
神戸市東灘区岡本8-9-1
甲南大学　国際言語文化センター　胡金定研究室

電話: 078(435)2353
FAX: 078(435)2545
E-mail　kokintei@center.konan-u.ac.jp